

平成 28 年度 環境改善に関する調査研究に係る外部評価について

課題：幹線道路沿道の微小粒子状物質（PM_{2.5}）対策に資する調査研究

道路沿道環境における微小粒子状物質（PM_{2.5}）及びナノ粒子に及ぼす要因に関する調査研究

公益社団法人大気環境学会

- ・沿道ナノ粒子の動態把握と自動車からの大気汚染物質発生量の推計手法の諸課題に関する検討がなされ、研究成果の今後の活用が期待される。
- ・全国で実施されているPM_{2.5}成分の測定データの評価も含めての更なる調査研究の推進と大気汚染対策に当たっての、得られた研究成果の具体的な活用方法の提案が今後の課題と考える。
- ・幹線道路沿道における粒子状物質汚染の実態解明、並びに自動車排出量推計に関する課題の整理が進んだと考えられる。前者については、とりわけ、直近道路からの自動車寄与率（濃度）、その長期変化、排出量変化との関係が興味深く、有意義な結果と考えられる。なお、本研究で推計されているのは、自動車寄与率ではなく、直近道路からの自動車寄与率なので、誤解を招かないように注意してほしい。後者については、最終的には排出量推計のリアルワールドでの検証が必要と思うが、その検証方法を幾つか提案できないか。
- ・研究成果は、貴重な知見を多く含んでおり、以降に記すように十分評価できる。自動車から排出されたPM_{2.5}の大気中での寄与度を、フィールドでの測定、および自動車からの排出モデルを用いての推計計算の両面から検討していることは、結果の信頼性を高いものにしている。ナノ粒子について、諸活動との関係についての分析に新たなアプローチ方法を取り入れるなど、課題は残るが今後の発展が期待できる。また次のステップの更なる研究を進めるために、研究から考えられる今後の展開について具体的に記してもらうことを希望する。
- ・将来のPM対策を考える上で有用なデータが示されている。OCの成分については測定されていないが、これが今後の研究で明確になることが望まれる。貴重な研究であり、他地域での展開も含めて何らかの形で継続されることが期待される。
- ・限られた財源と限られた時間の中で行われた研究事業としては、多数の専門家の能力を投入して、高いレベルでの成果が得られたことを評価したい。欲を言えば、調査・研究からえられた結論が、予防事業にとってどのような意味を持つのか、大気汚染の改善のための政策にどのような示唆が得られたのか、などに踏み込んでいただきたかった。